「大野谷虫供養」を知っていますか？

― 虫供養とその起源 ―

虫供養は田畑で殺した虫の供養と五穀豊穣を祈願した農民の祭りに、戦国武将の慰霊祭事が加わり、融通念仏宗の影響のもとに組織化されたものといわれています。

大野谷虫供養は戦国時代末期から４００年以上にわたる歴史と伝統のある行事です。その由来は、大野城主佐治氏の家臣が主家の没落後、佐治家の本尊であった仏の掛軸４本を大興寺に預け、追善供養したのが始まりという説や、大野城落城の際、城主の奥方が佐治家の守り本尊である阿弥陀如来の掛軸を持って逃げ、途中つぼけに隠しておいたのを大興寺の土井家のものが見つけて大切に祀ったのが始まりという説があります。

現在は常滑市と知多市の１３カ村（１４地区）のもち回りで、十二支の年に割り当て毎年営んでいます。大野谷虫供養は昭和５８年９月に愛知県無形民俗文化財に指定されています。

― 大野谷虫供養の行事 ―

虫供養の行事には①道場での供養、②巡回礼拝（阿弥陀講）、③彼岸大法要の３種があります。

①道場での供養は祭壇を設けて阿弥陀如来など１０種類の掛軸を祀り、それから延びる安産祈願の「善の綱」を張り巡らせて、入仏式、各地区念仏、管粥占いなど各種行事を１５日間（以前は１ヶ月）にわたって開催します。

②巡回礼拝は道場が終わって、その後２月１日から１４地区の日を定めてお阿弥陀さんを巡回礼拝します。毎日誰かが念仏を唱え、仏の功徳を皆に融通しようとするものです。榎戸は毎月１１日（現在は第２日曜日）にお参りします。

③彼岸大法要は秋の彼岸の日に祭壇を設けて掛軸を祀り、大きな塔婆を建てて供養をします。この大塔婆塔には虫の命により自分が生かされていることに感謝し、菩提のために念仏する銘文を記します。

― 当番地区と年 ―

大野谷では年々村から村へ虫供養にあたり定板（当番年を刻んだ板）と五号桝・一升桝を宿元へ受け渡します。

今回（巳年）は南粕谷が当番年となり、南粕谷道場は令和６年１２月２２日～令和７年１月６日の１６日間実施されました。榎戸は申年に当番となります。

今後は「虫供養保存会」を発足し、活動を推進して行く予定です。

榎戸区の皆様のご協力ご支援方宜しくお願いします。

（広報部会：斎田　富兼）

定板（念仏供養順番規定）元和二年

辰年	卯年	寅年	丑年	子年	亥年	戌年	酉年	**申年**	未年	午年	巳年
上松原	松原	西之口	大興寺	矢田	北粕谷	羽根	大草	権現	**榎戸**	石瀬	宮山	小倉	南粕谷